Venture'84 白石

スカウト浜松

ベンチャー賞
未知への冒険
第1回
シニアースカウト大会
1984・7・27～8・3
白石市南蔵王

〔地区大会風景　撮影：高倉清雄〕

「今、考えなければならない事」

浜松第14団副団委員長　齋　藤　元　司

スカウト活動は、全員でやらなければならない事です。

特定の人に全てをまかせていないでしょうか。あるいは、わずかな、限られた人達丈で運営されてはいないでしょうか。

リーダーにまかせっぱなしになっていないでしょうか。リーダーが、有休も全部スカウト活動に使い果し、日曜日も全てそれに当て、普通の日も夜は会合、会合、等になっていないでしょうか。

それなのにスカウトが、今日は部活、今日は子供会…と云って仲々集って来ない等となっていないでしょうか。

子供達の将来を想い、スカウトの為にやって居るのにカラマワリになっていないでしょうか。子供達にとってスカウト活動より、部活や子供会の方が良い（面白い）等になっていないでしょうか。それなのに子供達を押えつけていないでしょうか。

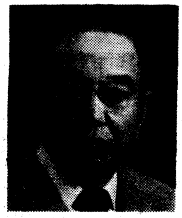
若しそうだとしたら私達のスカウト活動とは、一体何なのでしょうか。原点に戻って、一番最初からやり直し（考え直し）を全員でしなければいけないのではないでしょうか。

子供をスカウトにした時の親は何も知らないのです。そして親も若いのです。その時にリードしなければいけないのではないでしょうか。最初は判らないから嫌なのです。メンドクサイのです。少し強引にでも上手に引っ張り出して、良く話し合って笑いますが、優性ＢＳ病無限症候群とでも命名して、内田医院から診断書をもらう様な、同じ病原菌を持つ団委員を増さなければいけないのではないでしょうか。全員で考え、話し合い、素晴しい団創りをしなければいけない時が来て、いくら時間が掛っても、一つ一つ解決をして、少しづつ進まなければいけないのではないでしょうか。この素晴しいスカウト活動が、沈滞していゝのでしょうか!!

浜松地区結成30周年記念「浜松キャンポリー"84」

期間　"84年8月12日（日）～ 15日（水）
主催　浜松地区委員会　**協賛**　浜名、浜北、北遠各地

浜松地区大会挨拶（8月14日）



浜松地区委員長　内田時世

今年は、浜松地区が発足して30年になります。この30年の道程（みちのり）の中には、スカウト運動に奉仕された多数の方々によって築かれた、スカウティングの歴史がございます。

私達の後藤新平初代総長の自治三決に、「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするように、そして、むくいを求めぬよう。」と言う有名な言葉がございます。私達の先輩、先駆者は、この自治三決の言葉通りを実行されました。お陰で、浜松地区は立派に発展してまいりました。

「過去を知ることは、将来に責任を持つことだ。」と言われております。世界スカウトの歴史は77年、日本連盟の歴史は62年、浜松地区30年の歴史はその半分にもなりません。然し、関係皆様の奉仕により、すばらしい地区として発展向上いたしております。

世間の人は、スカウトの歴史などには関心はありません。人々は、現実の私達の行動に関心を持ち、いつでも批判の目で、私達を見ていることは事実でございます。

私達は「神と国とに誠を尽し、〝おきて〟を守ります」とちかいました。

これらの批判に答えるには、〝ちかい〟と〝おきて〟の実践しかございません。

私達は「スカウトらしい」毎日を過ごしているでしょうか。「スカウトらしい」とは、「スカウトらしさ」とは何でしょうか。皆さんと共に考えてみましょう。

それは、〝ちかい〟と〝おきて〟〝やくそく〟と〝さだめ〟を実行することによって生まれてくる人格だと思います。技能だけでは駄目なのです。

勿論、技能も大切です。それは、「いつも他の人々を助けます」と言う〝ちかい〟の一つは技能なくしては実行出来ないからです。

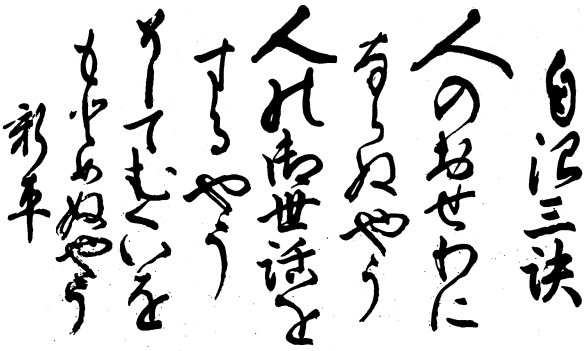
スカウトの皆さん!! スカウトは、その事がどんなにしたい事であっても、それが、してはならない事であるならば、いたしません、しません。

スカウトは、その事がどんなにつらい事であっても、それがしなければならない事であるならば、いたします、やります。

スカウティングとはこの事です。 この事を実行することは、勇気のいることです。⑩「スカウトは勇敢である。」と〝おきて〟にあります。

終わりに臨み、浜松地区の弥栄のため、関係皆様の、そして、スカウト諸君の力を是非とも貸して下さい。お願い申し上げます。

各団の弥栄を心より祈念して御挨拶といたします。



〈浜松第4団　野口隊長提供〉

昭和59年度 浜松地区表彰受彰者氏名

所属団	氏名	BS役務
浜松第1団	木村憲弘	BS隊副長
浜松第10団	刑部丈治	団委員
浜松第14団	片山和夫	CS隊隊長
浜松第15団	中村昌春	BS隊隊長
浜松第15団	伊藤たかね	CS隊副長
浜松第15団	杉山邦司	CS隊隊長
浜松第18団	松尾松彦	団委員
浜松第19団	野中重美	CS隊副長
浜松第21団	深谷守男	団委員
浜松第21団	村松宏	団委員
浜松第22団	梶村邦一	団委員
浜松第23団	小野田悟朗	CS隊隊長
浜松第23団	山内健次	BS隊副長
浜松第24団	市川茂明	副団委員長
浜松第25団	新村清孝	団委員
浜松第25団	徳田芳郎	カブ隊隊長
浜松第25団	中村隆則	カブ隊副長
引佐第2団	清水忠治	団委員

◎ デンマザー表彰（満2年間以上）

浜松第7団	松本サチ代	D・M
浜松第10団	澤木庸子	D・M

◎ スカウト善行章

浜松第16団	村山隆司	BSスカウト（菊）

「浜松キャンポリー'84」を終えて

浜松地区副コミッショナー
（ＢＳ担当）

玉木功一

今年は浜松地区を結成して30年と言うことで、記念キャンポリーを開催した。

昨年11月の地区委員会で、(1)テーマは「冒険と開拓」。(2)運営は、各運営委員会が分担する。(3)野営長は、地区コミッショナーと言うことで実行する事が決定した。

以後、各運営委員長のリードの下に準備は着々と進められ、立派に開催、運営することが出来た。

一方、ＢＳ隊側としては、「平素の各隊の訓練成果を発揮させよう」と話し合い、浜松地区の各隊は、昨年から、６、７月は「キャンポリーに使用する理想的な野営具造り」と言う同じテーマを設けて、班集会をするよう話し合って来たが、一部実行されていない隊があった事は残念であった。

しかし、参加したスカウト達は、楽しそうに会場狭しと活々と活動していた。

これも、各運営委員の方々の協力と、会場の森林公園、遠州鉄道、遠鉄ストアー、その他御協力下さった多くの皆様の力のお陰でした。有りがとうございました。協賛地区の皆さんにも御礼申し上げます。

この成果を基にして、浜松地区を発展させ、今後共全員参加で、楽しいスカウト活動をして行きましょう。

浜松キャンポリー'84に参加して

浜松第６団ＢＳ　河口重保

３泊４日のキャンポリーに来た。１番に気付いた事は、13日の午後、水道の水が出なくなったことである。水を大切にしようと云うことである。２番目に気付いた事は、浜松全体の団が来たと云うこと。まだあるが、やはりキャンプになると、大変なことが多い。たとえば、テントを建てる時骨組が無かったので遅くなったし、立ちかまどがこわれてしまったので、立て直した。その為昼食が、ものすごく遅れてしまった。自分にも遅れた原因があるから、その点を次のキャンプでは直してみる。

浜松第11団ＢＳ　青葉友良

開会式に始まり、設営、小営火、場外プログラム、模擬店、断水、イスの製作と数えあげればきりがありませんが、最も記憶に残っているのは、設営です。

班長訓練野営以来の長期キャンプのため、ぼくは、前から作りたいと思っていたイスの製作に取り組みました。

しかし、バランスが悪く力を加えると、あえなくペチャンコになってしまいました。

何個も失敗に終わりながらも、「撤営まで設営」の精神を忘れず、何度も何度もチャレンジして、やっと完成した時は、キャンプも後半にはいっていました。

それでも１度は、食事中に無残にもたおれてしまいましたが、イスにすわって背筋を伸ばして食事をする、ということは、今までのキャンプにはなかった充実感をあたえてくれました。

８月12日から15日まで続いたキャンポリーも、閉会式で終わりをむかえました。

顔には出しませんでしたが、ぼくは、３日目ぐらいから、家の安楽な生活をなつかしむようになりました。まして、まだキャンプ経験の少ない６年生などは、ずいぶんさみしい思いをした者もいると思います。

このキャンプで学んだことを、これからのスカウティングに生かしていきたいと思います。

昭和59年度海外派遣スカウト帰国報告

——ローバー隊の部——

昭和59年度特別海外派遣

“スカウティング”
～その清き流れを求めて～

浜松第12団ＲＳ隊　大村直樹

期間　7月25日～8月21日（28日間）
場所　イギリス・スペイン・シンガポール
目的　①イギリス・スカウティングの実地研究
②外国スカウトとの交際
（エセックス国際ジャンボリー参加）
③スペイン（アンダルシア地方）の魅力をさぐる

この派遣は簡単に説明すると、富士章取得者の応募者が個人プロジェクトとして独自の旅行を企画し、様々な試験の結果を総合判断され、毎年2名、各自50万円の援助金をいただいて、独自の旅をする派遣である。

私は幸い派遣員のひとりに選ばれ、多忙中過密スケジュールをこなして、出発した。

目的別にまとめると、①では有名なギルウェル・パークとＢ－Ｐハウスの見学をした。しかし、もともとテーマが大きすぎたり、時間的余裕もなかったので、大きな成果をあげることはできなかった。②ではヨーロッパ中心の20ヶ国、約4,000人参加のスカウト・ガイド合同のジャンボリーに参加したわけだが、日本代表として、一般スカウトとして、一般レンジャー及びスタッフとしてなど種々な立場を持ち、それ以上に個人参加であるため、様々な場面で、把握力、決断力、行動力が要求され、さらに英語力が加わるのだから、精神的動揺は隠せなかった。

しかし、今考えてみれば、この間に数多くのスカウトと接し、多くの友人を得る事が出来た。例えば、スペインのスカウトたちとは特に仲がよく、初日から最終日まで顔を合わせない日はなく、歌の交歓会やゲーム、サッカー試合ではスペインチームに特別参加したりして、彼らから〝家族〟扱いされるほどだった。さらに女の子と2人だけで2時間も話し合ったし、フォークダンスをしたり、ディスコではブレイクダンスにも挑戦した。

全体的印象は、初めての男女合同のためか、皆積極的に活動し、日本よりも男女仲よく、悪く言えばませていると思った。③では予定変更のためアンダルシア地方へ行けなかったのは残念だが、スペインスカウトと共に彼らの都市バルセロナへ行き、マドリッドには1週間も滞在した。その他、シンガポールでもスカウト活動を見学し、ローバースカウト2人（男女各1）が案内してくれた。

スペインでもシンガポールでも、男女一緒に活動しているので、日本もこれを考慮して新しいスカウティングを展開してゆくべきだと思う。

昭和59年度海外派遣スカウト帰国報告

フィルモント派遣隊に参加して

浜松第14団ＳＳ　吉川彰規

「皆様、お疲れ様でした。まもなくこの機はロスアンジェルス空港に到着致します。なお、ロスアンジェルス市の天気は薄曇り、気温は……。」

日本から十数時間の空の旅の後、いよいよ初めての外国に第一歩を記しました。そう、ここはアメリカ、私は、第８回静岡県連盟フィルモント派遣団の一員として参加したのです。この派遣団に参加するために、３月の終わりに選考会があり、４～７月の各月１回の集会を経て来ました。また、４月の班編成でアシスタントクルーリーダーとなり、自分自身だけでなく、クルーリーダーを補佐して、班全体を注意することになりました。

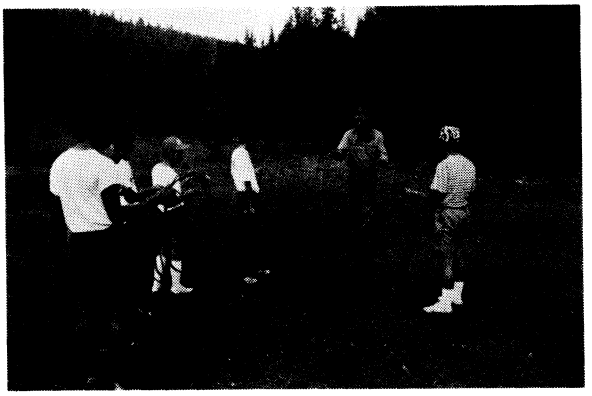
ここで、フィルモントについて説明しますと、アメリカニューメキシコ州の北部にあり、広さは、静岡県の約３分の２で、期間中そこには常時アメリカ中から集められたスタッフがおり、何万というスカウトが集まります。フィルモントは昔、石油会社社長のフィリップス氏が所有していた別荘地であったが、それを、アメリカ連盟に寄付したものだそうです。フィルモントに入った私たちは、指示された通りのキャンプ地でプログラムをこなします。キャンプ地には、スタッフキャンプと、トレイルキャンプがあり、スタッフキャンプには、スタッフが控えていて、プログラムの説明などをしてくれます。

さて、ロスから飛行機でアルバカーキまで飛び、そこからバスで、私たちはフィルモントに入りました。ウェルカムセンターで、私たちのレンジャーを紹介されました。名前は Beau Sill という、大変やさしく、いい人でした。また、彼はフィルモントの人気者らしく、あちこちで話しかけられていました。

私たちにも、日本人がまだ珍しいのでしょうか、会うと笑顔で話しかけてきます。 Beau もそうだったけど、大抵、私の、文法を無視した英文を真剣にきいて答えてくれました。日本人なら多分、舌足らずの日本語をしゃべるとばかにするかもしれません。でも少なくとも私は、真剣に聞きたいと思いました。

プログラムには、ライフル銃、ロック・クライミング、乗馬等がありました。ライフル銃とロッククライミングは、雨がふったので残念ながらこなす事が出来ませんでした。しかし、乗馬は相当長い距離を乗ったし、金鉱堀りをやったキャンプのスタッフと仲良くなったりしました。どのスタッフも、プログラムを行う時、やさしい英語でゆっくり説明してくれるような人ばかりだったので、私たちは大変助かりました。

また、フィルモントの自然のすばらしさに感動しました。 4,000m を越える山があったり、どこまでも続く平野があったりで、とうてい日本では考えられない事です。



私は、フィルモントにいって次のような事を学んだと思います。まず、人と人とのふれあい、アメリカでは、何人もの仲間ができました。だれもが、人とどんなにうまくつき合うかを教えてくれました。

第２に、自分自身というものが少し見えてきて、それが、あまりにも小さいということです。アメリカで限界に挑戦してきましたが、大自然の中でだと自分が見えてもとても小さく見えるのです。いかに人と協調していかなければいけないか知りました。

黙々と歩き、トレイル中は終わることしか考えていなかったが、いざ日本に帰ってくると、また行きたいという気持が込み上げてきます。フィルモントでの経験を、これからのスカウト活動に活かしたいと思います。多くのスカウトがフィルモントに行って学んで来れるよう期待します。

— 第1回シニアースカウト大会・日本ベンチャー'84 —

7月27日～8月3日

引佐第2団SS 清水靖訓

7月27日、早朝浜松駅に集合。誰もが生まれて始めてと思われる遠々9日間の訓練に、緊張の色が隠せないようだ。特にジャンボリー参加経験者は、台風に体を張った苦難が思い出に著しい。これからどんなことが起こるかわからないと言う気持ちで、自信より不安に満ちた様子であった。

新幹線で、午後2時頃宮城県白石駅に到着、そこからバスで現地ベンチャー会場に直行。

その夜は豪勢な弁当を食べ、明日の為、早めに寝た。

7月28日、各々の活動基地に向う。僕の基地は、福島県相馬地方の鳥崎海岸にある海洋センター。到着し昼食をとり、ハイキングに出発、山登りで山頂付近の未開発鐘乳洞を見学、涼しい。しかし下山で又暑さと疲れに見舞われた。

夜は、「野馬追い」の映画を見せてもらい、その後は自由交歓。

翌日、午前中は水上活動と言うことで、ヨット、カヌー、カッターなどを体験した。カッターは8人乗りで、僕たちの班だけ太平洋に乗り出し、荒波の中でスリルを味わった。その夜はプールで水球と、水に交った一日であった。

そして3日目の午後は海水浴、荒波にのまれて、最初は驚いたが、慣れると波のくせを知り楽しく遊ぶことができた。午後の水難救助、釣は時間つぶしに過ぎない感じであった。水難救助は難しかったが。

次の日の午前の乗場で、活動基地における訓練は最後である。無事に馬を乗りこなし、午後ベンチャーキャンプ主会場へと向かった。

活動基地では、話せる友達ができた。少数だったが、高校の友達よりも信頼できそうなスカウト仲間もいる。

主会場では、それぞれ違った活動基地に行って来た同じ隊の友達が、大変なつかしく思えた。

夜は、同じテントの3人の仲間とそれぞれの活動基地でのできごとを話し合い、4日間の疲れと緊張が一気に解ぐれたこともあり、爽快な気分で寝ついた。

8月1日、午前は、「バイスィクル・トライアル」いわゆるモトクロス自転車のようなものに乗る訓練に挑戦したが、思ったより難かしい技術が多く、「俺には素質がない。とに角早く終わりたい。」と思い苦しんだあげくやっと終われば、「またやりたい」などと思い、今では楽しかった思い出となった。

8月2日は「ディスカバー白石」白石の名産物を訪ねて研究するものである。先ず、温麺作りの工場を見学、田舎くさい所だし、とても静かであったが、気温が高かったことが印象に残っている。

次に和紙作りの工房を見学し、実際和紙をすいてみた。他の人がうまいので緊張したが、やってみると、他の人よりうまくできたと思う？

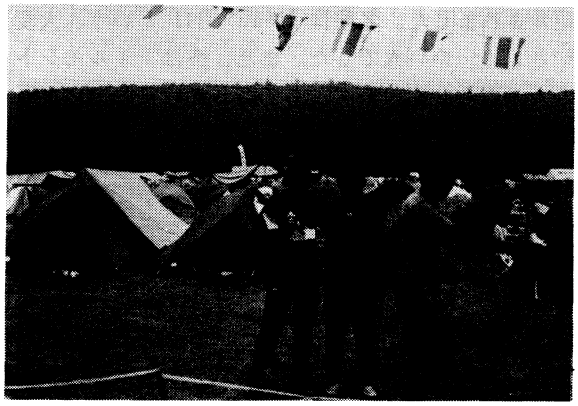
その工房の職人さんは、78才だと言われた。先祖代々の和紙工房を継いだらしい。「自分は不器用で、若い時分は苦労した。」とも話してくれた。その人の作った和紙が、大平洋戦争で日本が無条件降伏した時のチラシに使われて、アメリカの記者に和紙が認められた、と言うのには驚いた。

そして、次はコケシの絵着けに挑戦、コケシの顔は思ったほどうまく書けず、残念に思った。

次の日は、午前中にパイオニアリングで、開閉橋作りに挑戦。小さいが、頑丈な開閉橋を、雷を耳にし乍ら作り上げた。

その前夜は、ベンチャーナイトを見学したが、異常な盛り上りにあきれ、驚いた。この日は、タイのスカウト達と物々交換をして、いろいろな物を沢山交換でき、記念品の中でも、最も大切なものができた。だが今日は、ベンチャー84の閉会式。盛り上がっても何か寂しい。打ち揚げ花火のあざやかさも、散ると同時にベンチャー'84の終わりを思った。

真黒に日焼けした僕だが……、ただ家族の顔が見たくて……、明日はうかれて新幹線に乗り込み、大きな自信の土産を背負って、故郷、浜松へ帰ろう。



ヨット体験クルージング

中央近隣担当コミッショナー　近藤孝明

6月末、14団小笠原リーダーより、中央のスカウト達をクルーザに乗せて貰えるがいかが？と電話を戴き、1も2もなく賛成、その晩、浜松ヨットクラブの役員の方が説明に来て下さるとの事、14団の隊ルームにて説明を聞きました。

浜松ヨットクラブでは年間行事の1つとして「体験クルージング」を開いて今年で4回目だそうです。「今年は対象をボーイスカウトの人達にしましたので参加して下さい」と聞き是非共参加させて下さいとお願いをしました。これは日頃ヨットに親しみのない方々と一緒にクルージングを楽しんでいただき、ヨットに対する理解と親睦を深めていただく為だそうです。招待人員は約80名位、との事でした。3回にわたりヨットクラブの方々と会合を開き、私達の希望を入れて戴き、8月5日待望の体験クルージングをさせていただきました。

集合場所は舘山寺パルパルの横、市の駐車場、参加艇は22艇、大きな船は34人乗、小さいので8人乗のヨット、このヨットは外海にもいけるんだそうです。式典ののち、クラブの家族の方々と一緒に乗船しました。舘山寺港から大崎半島の先まで、スカウト達はロープ、帆の張り方、舵の操り方、そして交替で舵取りの経験をし、午後からはこの22艇でヨットレースをおこないました。スリルとスピードにスカウト達はすごく興奮しておりました。私もクルーザは初めて乗せてもらいましたがスカウト達だけでなく、リーダーの方々もよかったよかったと喜こんでくれて、参加してよかったなと思っております。

終わりにこの企画をして下さった浜松ヨットクラブの役員の皆様、又参加して下さった会員の皆様、特に役員の飯島さんにはいろいろとおほねおりを戴きお礼の言葉もご座居ません。ほんとうに有難うご座居ました。又この体験を来年も出来ましたらお願いしたいと思います。　弥　栄

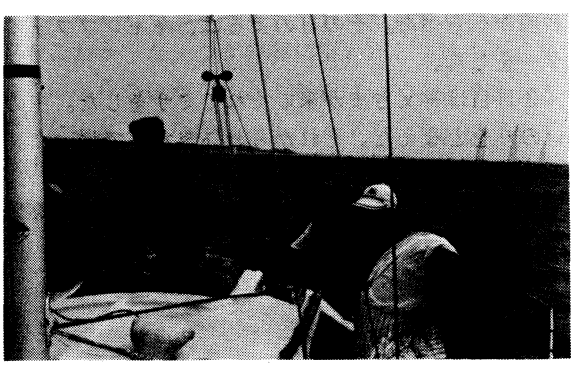
浜松第11団ＢＳ隊々長　斉藤　薫

浜松ヨットクラブの会員の方達のご好意、ご協力により、スカウト達は浜松地区ボーイスカウトとして初めてヨット乗船の体験をすることができました。

ヨットクラブ会員の方達は、浜名湖各方面に散在している所属マリーナから、はるばる結集されました。集まりましたすべての艇がクルーザーと言われている外洋にも出る事が出来る立派な艇ばかりで、その大きさに初めて乗船経験をするスカウト達はオッカナ、ビックリで乗船した次第です。

その日の経路は、舘山寺港～大崎半島までの往復でしたが、ヨットの帆や舵の操り方の説明があり、スカウト達は交替で舵取りの経験をさせて頂きました。大崎半島の先で休憩及び昼食を取っている間、スカウト達との約束〝水泳禁止〟も、照り返す太陽の陽差しと青い浜名湖の魅力で解かれ、スカウト達は涼しそうに泳いでいました。その後実施されたレースは真剣そのもので、各スカウトはすっかり興奮状態に陥りました。スカウト達にとってきっと良い夏の思い出として長く長く脳裏に残るものと思います。

最後に浜松ヨットクラブの皆様のご協力に深く感謝致します。また企画されたリーダー諸氏にお礼申し上げるとともに、スカウト達に貴重な経験をさせる為にも来年以降継続企画していただきたいと思います。



浜松第14団ＢＳ　竹下知宏(高台中1年)

ヨットという物はいざのってみると以外に大きい物なんだなーと思いました。またとてもすべりやすいのでくつをはきました。

ヨットの動かし方は、もちろんむずかしいのですが、ボーイスカウトでならったロープワークを多くつかっていることに気が付きました。ぼくがおしえてもらった航海のし方は、45°・45°で進む行き方や風は真横より後方の風がいいことなどです。

帰る時重要な舵を取らしてもらったけど、ぼくがやると右へ左へ行ってしまい、真っすぐ進みませんでした。ぼくはまだまだ未熟なんだなと思いました。またヨットは小さな船だけど乗員一人一人が、協力してチームワークをとらなければ船は進みません。こうしていくうちに、ボーイスカウト精神の決断力、判断力そして何より体力が必要なんだなと思いました。「からだを強くし、心をすこやかに……」です。ぼくはこの経験から、ボーイスカウトで教えられる「ちかい」や「おきて」又、技術はいろいろなところで生きているんだなあと思いました。

＊浜松第14団＊ぼくらのスカウティング＊

佐久島キャンプ

カブ隊うさぎ　次広信哉(萩丘小3年)

愛知県佐久島のキャンプ楽しかったなあ。さいしょの日に「ガラクタ音楽祭」をした。しんさいんに、新見副長がへんそうした中国人や、加茂副長が新聞紙でへんそうしたエリマキトカゲなどがいた。2組は「クラリネットをこわしちゃった」と「山の音楽家」をえんそうして1番だったので星の形のすなをくれた。

つぎの日は、ハイキングへ行ってはしをわたった。わたるとき海水がかかってつめたかった。やどかりやカニをとったりして、キャンプセンターでどんな名前かしらべた。その日のよるは、キャンプファイヤーをした。

3日目は神父さまが来てくれてミサをした。主のいのりをとなえた。それからお昼を食べて帰った。とても楽しいキャンプだった。

島の探険隊

カブ隊しか　川合健司(砂丘小4年)

「ゴットン、ガッタン」と、あきずにゆれている列車、だんだん目てき地の佐久島に近づく。だけど、それまでに列車を3回乗りかえて、それから歩いて船に乗り、佐久島まで着きました。

第1日目は水泳、ぼくは水泳は得意だからがんばりました。夜は「ガラクタ音楽祭」もしました。だいは「森の音楽家」と「ドレミの歌」です。第1日目はとてもたのしかったです。

2日目は、海の生き物をさがしました。ぼくは、くもひとでと、正体不明の生き物です。でもそれをとるために、とてもくろうしました。きもちがわるいのです。だけど死んでしまうととてもかわいそうでした。夜はキャンプファイヤーです。げきは、もも太郎です。ぼくは、はずかしかったけどさるをしました。歌は、「ぼくらはみんな生きている」のかえうたです。キャンプファイヤーの終わりに近づくと、ぼくは、はらいたをおこしました。げんいんは水ののみすぎです。みんなに心ぱいかけたなあ、と思いました。

3日目は、松井神父様が僕たちのために浜松から来て下さり、野外ミサをたてて下さいました。そのあと海の生きものをくわしくしらべて発表しました。とてもきんちょうしました。センターにお礼を言って帰りました。

ヨットに乗った事

ボーイ隊　池田大輔(新津中1年)

8月5日、その朝、ぼくはとてもいい気分だった。なぜかというと、生まれて初めてヨットに乗れるからだ。それも、ボートセーリングではなく、ヨットの王様といわれるクルーザーだ。

舘山寺まで隊長に乗せて行ってもらい、浜松ヨットクラブの人たちの注意などを聞いてから、ヨットに乗りこんだ。ヨットには、それぞれ、名前がつけられていて、ぼくののったヨットは、「ピーターラビット」という名前がついていました。いよいよ出発という時には、後だったせいか、先頭のヨットは、1キロメートルほど行っていました。始めのうちは、エンジンでしたが、広い所に出るとセール（帆）を張り、風の力で進みました。子供はぼくだけだったので、いろんな事を質問したり、又、教えてもらったりしました。かじもずっととらしてくれました。コンパスの見方、エンジンのかけ方など、いろんな事を覚えました。昼食を食べおわると、いよいよ、レースが始まりました。このレースの時、波がとてもあらく、たおれそうになりました。ハーネスという物の着け方も教わりました。ブイを回るタックの時に、半分水の中におちました。とてもこわかった。外海に出た時の話をしてもらったとき、ぼくはとてもおどろきました。この時の波だって高いと思っていたのに、太平洋に出たら、この何倍も何十倍も波があらく、20メートル先の水面を見るのがやっとだそうです。

船からおりると、「ああもっと乗りたい」と何度も思いました。この後、すぐ、太平洋1人ぼっちという本を借りてきて読みました。太平洋をおうだんしたいという夢は、ヨットにのっている人なら、1度は見るそうです。最後に、ぼくを乗せてくれたヨット、みなさん、浜松ヨットクラブのみなさん、本当にありがとうございました。

＊浜松第21団＊ぼくらのスカウティング＊

老人ホームを訪問して

ボーイ隊 遠山元紹（天竜中1年）

今日、初めて老人ホームを訪ねた。はじめにぼく達は近くの草かりをやった。今日は9月後半にしては日が強く暑かった。1時間半近くやったが、バラのような草などのとげがささってとても苦労した。それからおじいさん、おばあさん達の部屋を一つ一つまわった。1階の人達は、少しぼけているかんじだった。かわいそうな気がした。2階になると1階の人よりはよくて、いろいろな作業をやっていた。せめてこれからは家の人ぐらいの手伝いなどをしてやりたいと思いました。

ほう永山

カブ隊 竹山雅芳（和田東小3年）

ぼくは8月5日、5時15分におきてほう永山へ行くじゅんびをしました。そして、和田じちかいかんにあつまって、バスにのってしゅっぱつしました。とちゅうで、こいとますを見ていきました。バスにのってふじ山の近くにいくと、おかしのふくろがふうせんのようにふくれているので、ぼくはなぜだろうと思いました。そしたら、しゃしょうさんが「きあつのかんけい」とおしえてくれました。ふじ山5合目のちゅうしゃじょうで、たい長のちゅういをききました。そのちゅういは、「山をのぼるときは、くつのひもをゆるくして、山をおりるときは、くつのひもをかたくしていくのだよ」とおしえてくれました。ちょうじょうには、3ばんにのぼりつきました。晴れていて、よく遠くまで見えました。
ふじ山のちょうじょうも、もう少し時間をかければ、のぼりつきそうに近くに見えました。昼ごはんをたべて、みんなでしゃしんをうつしました。山小屋でおみやげをかいました。かえりに白糸のたきと、おとどめのたきを見ました。どっちもとてもきれいでした。17時ちょうどにかえりつきました。たい長の話を聞いてなかよしのわをしてかえりました。
ほう永山はとってもたのしかったです。

夏休みの思い出

カブ隊 岡本一秀（和田小3年）

ぼくは、生まれてはじめて父と母とはなれて1ぱくしました。大きなリュックサックをしょってねぶくろもはじめてのたいけんでむねがドキドキしました。あるくときすごくつかれました。川でさわがにとりをしたけど1ぴきも見つからなくて、さいごまでけっきょく1ぴきもとれませんでした。ゆうごはんは、やきにくでとってもおいしかったです。ゆうごはんがおわってからきもだめしもしましたが、とてもこわかった。つぎの朝に宝さがしをやった。まいごにならないかなッと、しんぱいでたまりませんでした。とてもたのしいキャンプでした。はじめてのけいけんばかりでした。また行きたいと思います。

老人ホームに行って

ボーイ隊 石原和宏（天竜中1年）

今日、ぼくは、老人ホームに行きました。まわりの草かりをやったとき虫がいっぱい出てきたりしてとてもつかれました。それから弁当を食べて、老人ホームの中をまわりました。中は、とてもきれいで、まだ新しそうでした。老人ホームで働く人は、たいへんだろうと思います。中の人は、ぼくたちがいくと、とてもよろこんでくれました。テレビを見ている人や、あみ物をやっている人もいました。それに、草かりをやって、とてもたいへんだったけど、すごくよろこんでくれて、お礼にかんしゃ状とコーヒーをもらいました。帰るときに、手をふってくれました。
ぼくは、年をとっても老人ホームには行きたくないと思いました。

＊浜松第26団＊ぼくらのスカウティング＊

茶臼山に行ったこと

カブ隊うさぎ　今井基次（中川小3年）

きょうカブスカウトで茶臼山に行きました。そして夕食を食べました。夕食はやき肉ていしょくでした。次に、キャンドルセレモニーをしました。ぼくたちの出しものはうたで、どじょっこふなっこでした。次の日、みんな朝4時30分に起きて5時に茶臼山のちょうじょうにのぼったら、なんと、雲が理科の本の、今ならっている天気のかわりかたの本のさいしょのページと同じで、雲が下にあって、山の下から雲が上にきました。

キャンプに行って

ボーイ隊　鈴木孝明（南陽中1年）

ぼくは、班長として、しっかりやってキャンプを盛り上げたい。

しかし、みんな、なかなか言うことを聞いてくれない。もう、班長なんかいやだと思っていても、案外班長の仕事に慣れてるから、なぜかやってしまう。

第1日目は、みんな案外聞いてくれて仕事をするが、ご飯やおかずがすぐ残ってしまう。量を減らしても残してしまう。

みんな夜はなかなか言うことを聞いてくれず、就寝時間になっても、みんな目をあけて眠ろうとしない。あきれて、ぼくがすぐに眠ってしまった。だめな班長だと心の中で言った。ぼくは、みんなをまとめる義務がある。だから、一所懸命明日はやるぞと思いました。

第2日目の朝がきた。みんなまだ眠たそうな顔をしている。こんな調子じゃあ、もたないだろうなと思った。

朝も、昼も、夜も、ご飯やおかずの出来るのが遅く、食べるのだけは早かった。

第3日目が来た。本当は明日までいたかったが、水泳大会があったので、途中で帰ってしまった。

みんななぜか、今日だけはいらいらしていた。それは、川で洗い物をしてはいけないのに、ちいさい川で洗い物をしたので、ご飯粒を拾わされ、みんなはいらいらしていたのだ。

みんなよい経験をしたと思うので、しっかり、ボーイスカウトの精神を忘れないでほしい。

感動の体験を得た茶臼山探険隊

—浜松第26団カブ・ボーイ合同隊集会—

9月23日、4時30分起床。朝もやのかかる牧場の緑のすがすがしさと快い冷気を肌に感じながら、日の出に間に合うようにと息をきらせて急坂を登る。ボーイ隊を先頭にカブ隊、団委員、父兄がそのあとに続く。頂上に到着すると同時に口について出た言葉は「わぁー。」「きれい。」

富士山の日の出もすばらしい。大洋上に昇る太陽もすばらしい。しかし、この日の茶臼山山頂での御来光は格別なものであった。眼下に牧場、その上に果てしなく続く雲海。5時40分日の出。総勢60余名。太陽に向かって合掌。祝詞の奏上。

1度は、子供達に見せてあげたいとかねがね思っていた山頂での日の出の体験。リーダーの予想以上に恵まれた条件で所期の目的を達成することができた。先日までは雨模様であったこの日は晴天に恵まれたこと、牧場の緑と乳牛の白と雲海の色と太陽の光線が立体的に見事にコントラストをかもしだした。

その後の各コーナー回りもいつになく子供達が生き生きしていた。

子供達は無論、父兄、団委員、リーダー共々感動した1泊2日のハイキングであった。

—隊長記録より—

よき野営地なり

＊引佐第2団＊ぼくらのスカウティング＊

班長としての体験

ボーイ隊　谷内康紀（引佐南部2年）

キャンプ地に着いたとき、まず行うことはサイト作りですが、僕は班長なのに何も計画せず来たためテントを作るときも、みんな何をしたらいいかわからず、ちぐはぐな動きでした。カマドを作るときもやり方を間違えたり、フライも途中で倒れたりで、リーダーの助けを借りる始末です。食事の方も、係の分担がしてなくてはかどらず、遅くなりました。始めからこうなので、いったいどうなるかと不安になりましたが、僕が指揮するしかありません。

2日目からは、常に先の事を考えて行動をするよう心がけ、食事の時も、係を分担し、水やまきを絶やさないように指示し、それが実り、除々にリーダーの助けをかりないようになり、仕事もてきぱきと進むようになりました。また、川に洗ざいが流れるという失敗もありましたので、川を汚すような事をしないように班員に徹底させ、以後そのような事はなくなりました。水の無駄使いが多いので、水源を止められるという事もありました。我が団で、そういう傾向が強かったので節水に努力しました。

このキャンプを通して、班長としての役割の大切さを体験しました。また水の大切さ、自然を保護する理由もわかりました。この経験を生かして、我が団のスカウト活動の向上に努力していきたいと思います。

すもう大会のこと

カブ隊しか　内山勝広（井伊谷小4年）

5月27日に中田島のすもう場でカブスカウトのすもう大会がありました。ぼくが心配なことは、一勝できるか、とけがをしないように、ということです。

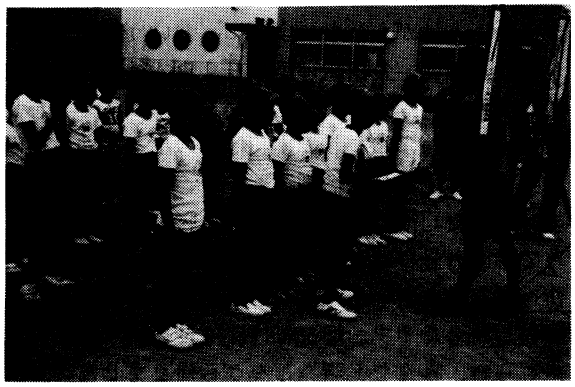
その日の朝、金指駅に集まり、車で行きました。ついてから、隊長などの話を聞き、準び体そうをしてからいよいよ始まりです。ぼくの出る番は最初から4番目です。最初は細江とやり、ぼくは負けてしまいました。後の二戦は2回とも勝ってうれしかったです。お昼には、ぼくたちの隊のお母さんたちが作ってくれたちゃんこなべとおでんを食べました。おいしかったです。帰りには、隊長にアイスを買ってもらい、みんなと話をしながら帰りました。とてもよかったです。

ファミリーキャンプに行って

カブ隊くま　石川益也（金指小5年）

8月の末にぼくたちは、村櫛海岸でファミリーキャンプをおこないました。村櫛について、隊長から注意をすることや話を聞き、まってましたと海水パンツをはいて海にはいりました。すこしさむかったけどがまんしました。貝拾いをしましたがぼくはあまりとれませんでした。海から出てシャワーをあびて着がえたが、また入る人もいました。昼飯を食べて竹や板をつかって船を作りました。また海に入って船で遊びました。海からでて着がえて、つりをしました。3びきしかつれませんでした。夜にキャンプファイヤーをやりました。次の日、朝食を食べ帰りの用意をしました。帰りにブルートレインに乗って二川の自然公園へ行きました。ファミリーキャンプはいろいろ遊べたので楽しかったです。

＊細江第1団＊ぼくらのスカウティング＊



楽しいカブスカウト

カブ隊くま　佐藤泰雅（西気賀小5年）

カブスカウトもあと半年です。楽しい事がいっぱいありました。一番の思い出は、去年佐鳴湖であった「子供フェスティバル」です。

「ハングライダー」で谷わたりをした事は一生忘れないと思います。順番を待っている時は、下を見てちょっとこわかったけれど、やってみると鳥になったみたいで最高の気分でした。それから、地図を持って組ごとにいったミステリー旅行も、とても楽しかったです。この時は、デンチーフや組長がとてもえらくたのもしくみえました。

それから中田島でやったすもう大会。

まわしや、のぼりの絵を書くのがとても大変でした。できあがったときは、とてもうれしかったです。だけど、大会の日は少し、ゆううつでした。すもうは得意じゃないから、はじめから勝てないだろうなあと思っていたからです。でも一生けんめいやったので三戦三勝をして自分でも信じられないくらいでした。ぼくは、「やればできるんだ」と思いました。カブスカウトに入ったおかげでいろんな体験ができました。あと、のこり半年どんな思い出がつくれるかとてもたのしみです。

ヒルモント　シニアー隊　内山公朗

7月22日から8月10日までの20日間、ぼくは第8回ヒルモント派遣隊の一員として参加してきました。全日程の13日間（ヘッドクォーターを含む）ヒルモントで生活し、残りはアメリカ国内の移動と観光でした。どこへ行ってもアメリカの広大さやすばらしさを肌で感ずることができました。その中でもやはりヒルモントでの生活は心に強く残っています。連日、雨と雷が必ずやってきてとても苦労しました。また50マイル（80キロ）を10泊11日で歩くのも大変でした。班員がみんなで協力し、団結しなければとても1日のプログラムをこなすことはできません。

しかし、その反面楽しいことの方が多かったといえます。午前中は25キロ前後のザックを背負い山道を歩き、次のキャンプ地へと向いますが、午後からは数多くのプログラムが待っています。乗馬、ロッククライミング、ブラックパウダー、……日本では経験できないようなプログラムを楽しむことができます。(雨のためできなかったものもある……。)

それから上のようなプログラムの後にはプラスチック製のバットとボールでアメリカのスカウトと毎日のように野球をしました。言葉の違いにも苦労しましたが、「いっしょに汗を流し、スポーツをする」これです。自分たちのチームを応援する。身方がヒットを打つ、喜ぶ。……毎日違うスカウトと違うキャンプ地の野原で野球をして盛り上がりました。そこでいっしょになったスカウトと、いろいろな交流が生まれ、簡単な英語でも思いきってぶつかると意外に通じるもので、たくさん友達をつくることができました。

また、野球の後は毎日キャンプファイヤーをそれぞれのキャンプ地のスタッフが楽しくやってくれます。ぼくたち日本人が来ると、とても歓迎してくれてうれしかったです。ぼくたちが全員でヒルモントの歌を日本語で歌ったときは、200人ぐらいのスカウトが総立ちで拍手など声援を送ってくれたのには感激しました。

こんなヒルモントでの生活は苦しい面がありながらも、その苦しさが楽しく感じるようになる要素がたくさんあります。毎日が夢のように思えます。もしみなさんがシニアースカウトになる日がきたら是非一度行ってみて下さい。必ず「何度でも行きたい」と思うようになるはずです。

＊可美第1団＊ぼくらのスカウティング＊

ぼくのスカウト活動

カブ隊くま　太田全彦（可美小5年）

9月の隊集会では「ぼくら名コック」のテーマで月見だんご作りをやりました。朝から、雨がふっていたので小学校のわたりろう下の土間で作りました。はじめ、こねると手にこながくっついてなかなかたいへんでした。次に大きなせいろでむしてから、小さくまるめてもう一度ふかすとおいしいおだんごができました。それから、さつまいもをふかしていっしょに手作りのさらにのせてそなえました。すすきとはぎの花もかざりました。雨だったので月がなくてさびしいので隊長が紙に大きな満月をかいてくれました。それで、だんごにきなこをつけてたべました。とてもおいしかったです。次の日ちょうど十五夜で、家族といっしょに同じようにだんごを作り月見をしました。この時は、お天気がよくて本物の月見ができよかったと思いました。

カブスカウトをふりかえって

カブ隊くま　寺尾仁志（可美小5年）

初めて入ったときは、何をやるか、あまり分かりませんでした。けれど、1年やってみてよく分かってきました。カブスカウトは、キャンプみたいに楽しいときもあったけれど、草取りや、いろいろいやになるものもたくさんありました。けれど2年間やってみると、決して悪いものではありませんでした。カブスカウトをやってよかったことは、ソフトボールや、キャンプをやったり、地区大会で食べ物や、おもちゃみたいなのを買ったりしました。どれもよかったけれど、友達がたくさんできたり、いろいろなものを身につけたり、とてもいい勉強になったと思います。「いろいろやって、それができて初めてりっぱな人間になる。」といわれたことがありました。この2年間そのことをできるだけやってきました。カブをやってよかったと思います。

カッター訓練で学んだこと

ボーイ隊　内山哲男（新津小6年）

9月29・30日と三ケ日青年の家へ行った。着くと同時にもう、みんなとの集団行動、集団生活が始まった。集団行動は1人でも自分勝手な行動をとっていると、全員に迷惑がかかるので、その点を特にきびしく注意しながらやった。カッター訓練で楽しかった事は、やっぱり夜のキャンプファイヤーでした。皆で歌を唱い、いろいろな出し物もやりました。その時は、もう楽しさでいっぱいだった。でも苦しく、たえることが、こんなにつらいことなのかと思ったのが、次の日の行事でした。それは、船に乗り、皆でこぎながら、三ケ日から舘山寺まで往復することだった。手は豆だらけで今にも手がちぎれそうで泣きたいくらいだった。この様な体験が出来るのは、ボーイスカウトだからと思った。これからも、出来るだけ参加して、いろんなことを身につけたいと思いました。

浜松キャンポリーに行って

ボーイ隊　高橋良典（可美小6年）

8月13日から3泊4日の浜松キャンポリーが始まりました。ぼくは、1日目はようじがあったので2日目から行きました。

ぼくが浜北森林公園についたら、すぐ昼食の準備に入りました。昼食を食べてからオリエンテーリングをやりました。2時間ぐらいがんばったけど5つのうち2つしかみつけることができませんでした。とてもつかれたので水を飲もうとしたけど、ちょうどだん水になったので水が飲めなくなりました。夜はつかれたけどなかなかねむれませんでした。次の日は、カブスカウトもきて地区大会が開かれました。模ぎ店では、いままでとても暑かったためか、かき氷を6ぱいぐらい食べました。その夜、おなかをこわさないかなと心配しましたがだいじょうぶでした。次の日、キャンポリー最後の日でした。てつ営をすまして、キャンポリーが終わりました。

SENIOR DOOR

ボーイスカウトと自然観察

浜松第11団ＳＳ隊長　古橋照久

私がカブスカウトの隊長をやっていた昭和56年、今まで3年間実施して来たプログラムに行きづまりを感じ、何か良い面白いものはないかと探していた所、ある日新聞で自然観察指導員養成講習会がある事を知りました。何か目新しいプログラムができるかも知れないと思い早速受講を申し込み、2泊3日の講習会を受けました。講習会と言ってもほとんどが野外活動で、室内での講議は1日のうち3時間位と短いものでした。（講習は朝6時から夜11時まで）この3日間の講習で私が学んだものは、第1に子供達に自然に親しんでもらうこと、第2自然をよく知ってもらうこと、そして自然を守る気持が自然にでてくるようにしなければならないということです。

私達ボーイスカウトは自然の中を教場として、活動をしていますので第1の自然に親しむ心は、すでにできていると思います。そして第2番目に上げた自然をよく知ってもらう為にはどのような事をしたら良いかという問題ですが、ただ動物や植物の名前を覚えるだけではなく、動植物の生活のことや、おたがいのかかわりあいのことに、関心や興味がむくようなリードをしていかなければならないのではないかと思います。

これまで私自身も、分類（個々の名前）形態等に関心を持たせ、これは益虫だこれは害虫だといった一面的な概念でスカウト達に話して参りました。しかしこの講習会での話しを聞いて、害虫を全て殺してしまえば、これを餌にしている益虫が餌不足の為生きて行けなくなってしまうというわかり切った事に感心させられました。

このような事からも言えるように自然は総合的に把握されなければならないと思います。そこでスカウト達に自然を知らせる第1としては、自然のしくみをよく覚えてもらう事から始まると思います。わかっていると思いますが自然のしくみを簡単に説明致します。

自然をよく観察すると、ある池で格別餌を入れてやるわけでもないのに魚も元気に育っています。そこでは太陽の光を受け藻が育ち、動物や植物が有機物を分解することで生活を営み、その結果無機物が出され、それがまた植物の有機物生産の原料になるという形で物質の循環があります。こうした物質の動きがあっても、そこでの物質の総量は変ることなく、生物の生活が営まれるわけです。こうしたつながりを生態系と呼びます。自然を観察する時はこの生態系の観察に興味を持って行わなければなりません。

それではスカウト達が自然の中に入ってこの生態系に興味を持つようにするにはどのような方法を取るのが良いかというと、やはりカブスカウトから自然の中に入ってよく自然を観察させる、自然観察をゲーム化する、総合的に自然を見させる等状況年代により様々な方法が考えられます。又、スカウト達に疑問をもたせそれを自分で解決する様にリードして行く、疑問を次回の集会まで持ち越し研究して持ちよる等の方法も考えられます。我々ボーイスカウトは私達の教場である自然を大切にしなければいけないし、自然を大切にする気持は自然をよく観察する事から始まると思います。

前述した生態系は池に限らず一つの山、そして一つの川もこの生態系を構成していますし、地球全体も生態系としてとらえられます。そして私達の住む地球は現在生産は非常に落ちていると言われております。なぜならば農地は化学肥料の使いすぎにより劣化するし、海は油で汚染し、大気も汚れております。又道路を広げ、森林を伐採する等生産のない、或いは低い土地を増やしている為です。これからは植物の育つ環境を育成し生産をあげる努力が必要です。

むつかしい事を書きましたがスカウトが自然観察をする事は、そんなにむつかしい事ではありません。ただ一つのものをよく見る目と根気よく観察する気持、今までとちがった所を発見する目を持つ事が必要なだけです。それには、葉やけしきのくわしい絵を書く事により自然をしっかり見るくせをつけよう。

そして静かにしてどんな声が聞えるか、においをかいだり、さわったりしてその種類の特徴を覚えたり、自然界の中の物の大きさとか温度を計ったり、めずらしいものを探したり、動物の跡をつけたりして記録を取る等して整理をする様にすれば自然に親しみと愛情が生まれると思います。自然観察はいつでもどこでもできるものです。

浜松地区進歩かべかけ表

浜松地区進歩委員長　山　中　洋　一

昭和59年度の6月30日現在の各団の進歩・進級の調査結果が別表の通り集計出来ましたので、報告します。

昭和58年6月30日現在の調査結果と比較対照出来るように、下欄に付け加えました。

前年同期比ＣＳが39名減、ＢＳが25名減、ＳＳが7名減で合計71名減の 1,390名です。

尚9月30日現在の進歩状況の調査を行っておりますので、各団の御協力をお願いします。

昭和59年度 浜松地区スカウト進歩・進級一覧表

浜松地区進歩委員会

昭和59年6月30日現在

太字は各隊の比率を示す

区分	CS											BS													SS											総合計
	小2年	小3年		小4年			小5年			合計	小5年	小6年	中1年			中2年				中3年				合計	中3年	高1年		高2年			高3年				合計	
団号	りす	りす	うさぎ	りす	うさぎ	しか	りす	しか	くま	計	見習い	初	初	2	1	初	2	1	菊	初	2	1	菊	計	GS	GS	SS	GS	SS	隼	GS	SS	隼	富士	計	
浜松1		10			6			16		32		10		10				6						26		2			3			3			8	66
4		15			19			6		40		9	11	1			5				1	3		30		4			3			3			10	80
6		5		1	6			6		18		6	9	5			4	1				1	1	27					3			2	1		6	51
7		7		1	13		1	10		32		14	7			2	9					6		38		3			3			2			8	78
10		10	4	2	9	1	1	9	1	37		13		10				7				6		36			4			4		2			10	83
11		3	1	3	8			9		24		8	7				11				2	4		32		6			5			6			17	73
12		8			7			6		21		9	9			1	5				1	3		28		6		1	6			3	3		19	68
14		7		3	12			2		24		9	3			1	1				3			17			5		2			1	1		9	50
15		13			10			9		32		7	11				8					6		32			4		6			1			11	75
16		9			7			4		20		7		6				6				5	1	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45
18		10		1	15			11		37		8	11			9	1					6		35		9			11						20	92
19		11			13		1	12		37		8	18				4				1	4		35		5			2						7	79
20			3			2		1	4	10		5		4			3	1			4			17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27
21		10		2	7			12		31		11	10				8			4	7			40		4			6			3			13	84
22		4			5		1	6		16		6	10				4					1		21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37
23		10			8			15		33		9		9			7					3		28		5			6						11	72
24		8			10			6		24		9	14				4					12		39			6		9			5			20	83
25		5			13			3		21		5	3			4					4			16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37
26		7		1	8			6		22		11	3			2					1			17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	39
引佐2		3			1			11		15		6		6				2				1		15		7			3			1			11	41
細江1		8		1	10			9		28		7		8			6				7			28			5		4	1			2		12	68
可美1		6		1	9			10		26		6		6		3	2	2		6	3			28		7			1						8	62
合計①		169	8	16	196	3	4	179	5	580		183	126	1057		22	82	251		10	34	61	2	610		58	24	1	73	5		32	7		200	1390
構成比②		29.1	1.4	2.8	33.8	0.5	0.7	30.8	0.9	**41.7**		30	20.7	10.7		3.6	13.4	4.1		1.6	5.6	10	0.3	**43.9**		29	12	0.5	36.5	2.5		16	3.5		**14.4**	**100**
58年 ①		184	21	18	159	17	5	189	26	619		197	88	1087		21		658		10	45	80	4	635		25	72		253	2	1	39	15		207	1461
%30 ②		29.7	3.4	2.9	25.7	2.8	0.8	30.5	4.2	**42.4**		31	13.9	10.7		3.3	18.5	0.8		1.6	7.0	12.6	0.6	**43.5**		12.0	34.8		25.6	1			7.3		**14.1**	**100**

スカウト浜松第100号記念号について

「スカウト浜松」の昭和60年7月25日発行号が、第 100号になります。
係では、これを記念して次の事を企画しておりますので、皆様の御協力をお願い致します。

記

1、特別号として編集、内容についての御希望、御意見を各団組織拡張委員迄お寄せ下さい。
2、特別写真コンテスト（兼第5回コンテスト）

○**題材**　ボーイスカウトの活動をテーマにしたもの。
隊集会、班集会、月例会、組集会、その他の訓練、ハイキング、キャンプ、ヨット訓練、友情交歓、ヒルモント派遣、奉仕活動、県大会、地区大会、日本ジャンボリー等。

○**作品の条件**
1　サイズ　(1)白黒：サービス判以上4切まで
　　(2)カラー：サービス判以上キャビネ判まで
2　一枚写真・組写真何れも可

○**応募点数**　制限なし。ただし入賞は一人一賞とします。

○**締切り**　昭和60年9月30日

○**賞**

◎最優秀賞	〔スカウトの部〕	地区協議会長賞	1点
		コダック賞	1点
	〔成人の部〕	地区協議会長賞	1点
		コダック賞	1点
◎優秀賞	〔スカウトの部〕	地区委員長賞	2点
		コダック賞	2点
	〔成人の部〕	地区委員長賞	2点
		コダック賞	2点
◎入選	各部	記念品「スカウト浜松」賞	10点
	〃	コダック賞	10点

○**参加資格**
〔スカウトの部〕カブ、ボーイ、シニアの各スカウト
〔成人の部〕ローバースカウト、リーダー、団委員、育成会員、父兄等。

○**審査**　高倉清雄氏（浜松第7団副団委員長）

○**発表**　「スカウト浜松」誌上
入賞者には直接ご通知します。

○**提出先**　各団組織拡張委員宛

○**送り先**　各団組織委員は→「スカウト浜松」奥沢達司へ
〒430 浜松市佐藤町549—5　TEL0534—63—5975

○**注意事項**
1　応募作品は未発表のものに限ります。
2　作品の裏面には必ず下記様式の「応募票」をはって下さい。
3　入賞作品はネガフイルムの提出をお願いします。

主催　「スカウト浜松」ボーイスカウト浜松地区委員会
協賛　長瀬産業㈱コダック製品事業部

応募票　100号記念ボーイスカウト写真コンテスト

表題				単・組
部門別	スカウトの部	成人の部		
氏名		年令	才	男・女
住所		電話	—	
所属	第　団　隊	級又ハ役務		
該当項目の何れかを○でかこむ				

—地区のうごき—

7月3日　地区コミ会議（法林寺）
7日　営火研修会（市立青少年の家）
9日　キャンポリー84打合せ（法林寺）
11日　CSリーダー会（法林寺）
15日　ヨット講習会（寸座マリーナ）
17日　地区名誉会議（法林寺）
　　健康安全委員会（法林寺）
18日　進歩委員会（法林寺）
19日　SSリーダー会（青年婦人会館）
20日　指導者養成委員会（法林寺）
22日　キャンポリー84現地下見（森林公園）
23日　BSリーダー会（法林寺）
24日　組織拡張委員会（法林寺）
25日　地区委員会（法林寺）
27日
8月3日　SSベンチャー84（南蔵王）
2日　財政委員会（法林寺）
7日　地区コミ会議（法林寺）
8日　CSリーダー会（法林寺）
11日
14日　SS県連アドベンチャー
11日
15日　浜松地区結成記念キャンポリー84
　　（浜北森林公園）—地区大会14日—
17日　BSリーダー会（法林寺）
18日
19日　訓練チーム夏期研修会（菲山）
22日　地区委員会（法林寺）
23日　SSリーダー会（青年娠人会館）
25日
26日　ヨット講習会（寸座マリーナ）
29日　キャンポリー84反省会
　　（コンコルド浜松）
9月2日　SSヨット補講
4日　地区コミ会議（法林寺）
9日　歌研修会（曳馬公民館）
12日　CSリーダー会（法林寺）
19日　財政委員会（法林寺）
　　進歩委員会（法林寺）
21日　BSリーダー会（法林寺）
25日　組織拡張委員長・副委員長会（法林寺）
26日　地区委員会（法林寺）
27日　SSリーダー会（青年婦人会館）

発行所　第97号
日本ボーイスカウト浜松地区事務所
〒430 浜松市佐藤町549-5
編集発行責任者　奥沢達司
印刷所　㈱朝日堂印刷所
昭和59年10月25日　発行